

重点取組名	農事組合法人を核とした福賀地区の営農体制確立
普及活動担当	山口県萩農林事務所農業部
主要な活動地域・対象農業者	阿武町福賀地区の(農)あぶの郷、(農)福の里、(農)うもれ木の郷、法人周辺集落
取組結果・成果 <取組みのねらい>	<p>阿武町福賀地区では3つの特定農業法人を中心に農地の利用集積が進んでおり、この3法人の連携活動を核として地域農業の担い手の確保、農産物のブランド化により産地強化を図ろうと普及活動を展開している。</p> <p>普及活動では、法人経営の安定を図るため、販売目標数量の達成や戦略品目（スイカ、ホウレンソウ）の面積拡大等を目標に設定し、水稻の1等米比率の向上、大豆、飼料作物、スイカ、ホウレンソウの作付推進を行ってきた。</p> <p>こうした取り組みの結果、平成17年の米の品質は福賀地区全体で1等米比率が90%以上となり、また大豆もほとんど全て特定加工用以上の規格で出荷することができた。</p> <p>さらに飼料用イネ（WCS）の推進を図るため、飼料用イネの利用や品質向上のための研修会を開催する等、耕種農家と畜産農家が連携する取り組みを支援してきた。</p> <p>この結果、耕畜連携による取り組みとして地区全体の飼料用イネの生産・利用システムが確立され、地区内の堆肥利用の取り組みも始まる等、地域内資源の循環型農業のモデルとなりつつある。</p> <p>一方で3法人の連携活動を推進するため、関係機関とともに法人連携会議を開催し、法人を核とする福賀地区全体の営農体制の方向について協議してきた。</p> <p>この結果、法人相互の情報の共有化が進み、地区全体のブランド力の強化や3法人の女性部の交流活動等、新たな活動への気運の高まりにつながった。</p> <p>また、3法人以外の集落でも、集落営農への話し合い活動が始まる等法人活動の効果が波及しつつある。</p> <p>一方で戦略品目であるホウレンソウやスイカは連作障害等による課題も多く、栽培面積は伸び悩んでおり、今後こうした技術課題の解決を図っていくことが重要となっている。</p>
連携機関、協議会等	萩農業改良普及協議会阿武部会、阿中地域飼料イネ生産・利用推進連絡会議
取組の特徴や取組に際しての工夫	<p>福賀地区には平成9年に設立された(農)うもれ木の郷、平成15年に設立された(農)あぶの郷、(農)福の里の3つの特定農業法人があり、それぞれの設立過程において関係機関とともに農林事務所農業部が積極的な支援を行ってきた。</p> <p>これらの法人は経営面積や品目、構成員数等にも差があり、経営理念も異なることから、過去の設立過程で指導してきた内容等も踏まえ、各法人毎、活動対象の目的や要望に応じて普及手法も変化させるなどきめ細やかな指導に努めている。</p> <p>また、こうした3法人の取り組みは法人経営のモデルとして他地区にも波及できるよう、そのノウハウや実績等の蓄積を関係機関とともに共有化し、他地区の集落営農組織でも活用できるよう情報提供や事例紹介を行っている。</p> <p>なお、法人連携活動については、法人相互の情報交換促進を図ることにより、経営ノウハウの共有化や技術研さんにつながるようコーディネートしており、地域づくりの話し合いの場としても機能するよう調整を行っている。</p>
【参考】	添付資料（活動状況の写真）



(写真①：法人連携会議のようす)

写真①



(写真②：法人女性部活動のようす)

写真②



(写真③：飼料用稲（WCS）収穫状況)

写真③